

SJ

The Safety Japan
since 1971

Safety Report

セーフティルポ 若者

高校生のバイク利用を前提とした
交通安全教育について議論

9月16日、前橋テルサ(群馬県前橋市)で「第5回BIKE LOVE FORUM(以下、BLF) in 群馬・前橋」が開催された。BLFは、世界に通用するすばらしいバイク文化の創造をめざすとともにバイク産業の振興、市場の発展等を図ることを目的にバイクに関わる業界・団体※1、地方自治体※2などが核となり、利用者等も交え、関係者間で社会におけるバイクへの認知と受容、共存のあり方やバイクの将来像等に関して議論する会議で、2013年に経済産業省の呼びかけで立ち上げられた。

交通安全条例制定などによって
「3ない運動」を廃止した群馬県

まず群馬県議会議員の須藤昭男さんが「『3ない運動』廃止から群馬県交通安全条例制定に向けた取り組み」というテーマで講演。1982年から始まった高校生に対する「3ない運動(免許を取らない・バイクを買わない・バイクに乗らない)」は、推進した全国高等学校PTA連合会が2012年に「自転車・バイク・歩行者のマナーアップ運動」へと転換し、終結を迎えた。しかし、未だに多くの高校では「3ない運動」が継続されており、この背景には「何かあれば学校が責任をとる」という風潮があるのではないかと考えられる。こうした状況の中、群馬県は2014年に交通安全条例(以下、条例)の制定と交通安全対策に関する決議を行い、「3ない運動」を事実上廃止した。条例制定の背景には、初心運転者の事故発生率※3が1989年から2013年まで群馬県は全国ワースト1位と、全国平均と比べ高い水準だったことがある。「『3ない運動』を推し進めてきたことで高校生への安全教育が置き去りになり、それが初心運転者の事故発生率を高めている一因ではないかと思いました」と須藤さんら県議会議員は交通安全対策特別委員会を設置して、「3ない運動」の見直しの議論から、条例の制定へとつなげた。

この条例の特徴は「在学中に自動車等の免許を取得可能な年齢に達する高校生等が、交通社会の一員として責任ある行動がとれるよう、総合的かつ計画的な交通安全教育の実施に努めること」など交通安全教育の推進を盛り込んでいることだ。須藤さんは条例制定の効果として、初心運転者の事故発生率が低減し全国ワースト1位から脱却したこと、二輪、四輪ともに運転免許取得者が増加したことなどを強調。その一方で、群馬県内の自転車事故発生件数は2014年から2016年にかけて中学生が37%削減したのに対し、高校生は7%しか削減できていないことなど今後への課題を挙げた。

学校、行政、警察、業界が協力し、
高校生がバイクを安全に利用できるように

続いて、経済産業省製造産業局自動車課課長補佐の高橋一幸さんが、2020年をめざして進めている「二輪車産業政策ロードマップ※4」の進捗状況を報告。この後、日本大学理工学部助教の稲垣具志さんをモデレーターに迎え、パネルディスカッション「高校生等に対する交通安全教育の推進」が始まった。「3ない運動」を廃止した群馬県では今年7月に同県教育委員会主催で公立高校の生徒を対象とした「二輪車安全運転者講習会」を実施。同県教育委員会健康体育課指導主事の黒巖賢さんは「事故事例に基づいた教育内容を計画し、生徒だけでなく交通安全指導を担当している先生方にもバイク(原付)に乗って参加していただきました。急制動など公道ではできない体験ができたことは意義があったと思います」と話した。群馬県警察本部もこの講習会に協力しており、同県警察本部交通部交通企画課交通安全対策室長の岡本英仁



「『3ない運動』廃止から群馬県交通安全条例制定に向けた取り組み」というテーマで講演した群馬県議会議員の須藤昭男さん



パネルディスカッション「高校生等に対する交通安全教育の推進」のモデレーターを務めた日本大学理工学部助教の稲垣具志さん

Contents

- P1 Safety Report セーフティルポ 若者
- P2 Safety Info インフォメーション
- P3 Safety Report セーフティルポ 子ども
- P4 Close Up クローズアップ 福祉安全運転
- P5 Close Up クローズアップ 交通安全センター
Close Up クローズアップ 四輪販売会社
- P6 SJ Interview 石田敏郎・早稲田大学名誉教授
- P7 All About SAFETY 安全をいかに創造するか
- P8 危険予測トレーニング(KYT)
SJ クイズ



Safety for Everyone

Honda はすべての人の
交通安全を願い活動しています。

SJ ホームページは

編集室：本田技研工業株式会社 安全運転普及本部内
〒107-8556 東京都港区南青山2-1-1
TEL：03(5412)1736
<http://www.honda.co.jp/safetyinfo/>
編集人：原田洋一

※ご不明な点がございましたら、下記までお問い合わせください。
㈱アストクリエイティブ安全運転普及本部係
TEL：03(5439)1191
E-mail：sj-mail@spirit.honda.co.jp

さんは「実技指導は生徒の安全意識が高まるので効果的」と語った。埼玉県では現在、「3 ない運動」見直しの検討が進められており、同県教育委員会生徒指導課生徒指導主事の澤畑信行さんは「学校に無許可で運転免許を取得した生徒による事故が課題」と述べた。日本二輪車普及安全協会安全普及部長の作田裕樹さんは二輪車業界が高校生を対象に実施している交通安全教育の体制や内容、横須賀二輪車安全普及協会副会長の藤井正一さんは「3 ない運動」の全盛期に「乗せて教える」へ方針転換した神奈川県横須賀市の地域、行政、利用者、二輪販売店が一体となった取組みを紹介した。

モデレーターの稲垣さんは、「『3 ない運動』を廃止したら終わりではなく、その後も高校生のバイクの利用状況をきちんと見つけて、安全で快適に利用できる環境を整備して欲しいと思います。そのためにも学校、行政、警察、業界がそれぞれの立場で、高校生にどのような交通安全教育ができるのかを議論する仕組みづくりが必要です」とパネルディスカッションを締めくくった。

このほか、今回の BLF では (株) リサーチ・アンド・ディベロップメントのビジネスプロデューサーである堀好伸さんによる「日常の“体感”がファンを生む」という講演も行われた。多くの若者との対話を通じ、若者の消費行動を分析している堀さんが「若者に二輪文化の再燃の兆しがあり、皆さんの活動は一步一步前進しています」と業界関係者にエールを送った。

最後に、日本自動車工業会 二輪車特別委員会委員長の柳弘之さんが「二輪車メーカーは安全・安心で、おもしろいバイクをつくるために最大限の努力をしていくつもりです。これからも地域の皆さんと協力しながら、良い二輪車市場をつくっていきたい」と述べ、BLF は幕を閉じた。

※1 経済産業省、日本自動車工業会、日本自動車部品工業会、全国オートバイ協同組合連合会、日本二輪車普及安全協会、日本自動車輸入組合、全国二輪車用品連合会、日本二輪車オークション協会、中古二輪自動車流通協会
 ※2 三重県、鈴鹿市、静岡県、浜松市、磐田市、熊本県、群馬県、前橋市
 ※3 事故発生率 (%) = 普通自動車免許取得後 1 年以内に起こした事故数 / 普通自動車免許取得者数 × 100
 ※4 二輪車産業政策ロードマップ = 2014 年に二輪車関連団体および地方自治体によって策定された二輪車産業の成長戦略。2020 年をゴールとした目標設定、課題整理、実行施策および展開イメージがまとめられている。



パネルディスカッションでは二輪車業界が取り組んでいる高校生に対する交通安全教育の事例なども紹介された

Safety Info.

インフォメーション

警視庁とHondaが交通事故防止対策の推進に関する協定を締結

9月27日、警視庁にて交通事故防止対策の推進に関する協定の締結式が行われ、同庁の山本仁交通部長と、Honda 安全運転普及本部の原田洋一事務局長が協定書に調印した。今後、「SAFETY MAP※」に表示されている急ブレーキ多発地点情報を警視庁に提供するなど、道路利用者の安全確保に向けて相互に協力していく。山本交通部長は「この取組みを道路環境の整備や交通

安全教育の対策につなげ、東京都民の安全確保に努めていきたい」と挨拶。原田事務局長は「私どもが提供する東京都内の急ブレーキ情報をハードとソフトの両面の対策立案に活用いただき、1 件でも悲惨な交通事故が減れば、これに勝るものはありません」と語った。Honda が、このような協定を各警察本部と締結するのは警視庁が全国で 4 例目となる。

※SAFETY MAP=Honda が開発したソーシャルマップ。日本中を走る Honda インターナビ (双方向通信型のカーナビ) 搭載車から通信で送られてくるデータをもとにした急ブレーキ多発地点情報をはじめ、事故多発エリア情報やゾーン 30 情報などが表示されている。パソコンやスマートフォンで自由に閲覧でき、自分が危険だと感じた場所を投稿することもできる。詳細は以下のホームページを参照。https://safetymap.jp/



警視庁 山本仁交通部長 (左) と Honda 安全運転普及本部 原田洋一事務局長 (右)

第 48 回全国白バイ安全運転競技大会開催

全国から集まった白バイ隊員が白熱した競技を展開



傾斜走行操縦 (スラローム) 競技。Honda は大会の審判業務などに協力した

10月7日、8日の両日、自動車安全運転センター安全運転中央研修所 (茨城県ひたちなか市) にて第 48 回全国白バイ安全運転競技大会 (主催: 警察庁) が開催された。

この大会は、全国の白バイ隊員の安全運転技能の向上、士気の高揚及び隊員相互の融和団結を図ることを目的として、1969 年より実施されている。今年、46 都道府県警察および皇宮警察から、女性隊員 40 名を含む 188 名の選手が参加。バランス走行操縦競技、トライアル走行操縦競技、不整地走行操縦競技、傾斜走行操縦 (スラローム) 競技の計 4 種目によって熱戦が繰り広げられた。

主な結果は以下の通り。

- 団体の部
 - (第 1 部・9 都府県警察)
 - 優勝 / 警視庁
 - 第 2 位 / 神奈川県
 - 第 3 位 / 愛知県
 - (第 2 部・37 道府県警察・皇宮警察)
 - 優勝 / 佐賀県
 - 第 2 位 / 宮崎県
 - 第 3 位 / 群馬県
- 個人競技の部
 - (男性の部)
 - 優勝 / 北村匠 (神奈川県)
 - (女性の部)
 - 優勝 / 中前まどか (警視庁)



不整地走行操縦競技



閉会式では各部の入賞者が表彰された